

平成28年9月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

青梅市立第六小学校

この文化財ニュースでは今まで、市立第五小学校まで紹介してきました。これからご紹介する市立第六小学校は、旧三田村の学校です。

今まで何回もこの紙面で書いてきましたが、三田村が誕生したのは明治22（1889）年の市制町村制が施行されたことによるもので、「……一般ノ人民必ス邑ニ不学ノ戸ナク家ニ不学ノ人ナカラシメンコトヲ期ス、……」という「学制」が頒布された明治5年8月2日時点では旧三田村ではなく、沢井村下分、沢井村上分・二俣尾村というだいたい今の町名に当たる各村々でした。（ただし、明治22年までは多摩川の北側は現在の奥多摩町との堺界まで全て「沢井村」（現・御岳本町は無い）で、「御岳村」と「御岳山」は今の「吉野地区」のグループに所属したがって、学制が頒布されてできた学校は、二俣尾村に「桃林学舎（海禅寺：明治7年8月）」、沢井村上分に「遵則学舎（明治6年11月、平石：沢井3丁目）」、沢井村下分に「三田学校（明治6年10月、関谷：沢井1丁目）」、御岳村ではすぐに学校を作れず沢井村上分の「遵則学舎」に入学させていたが、「耕習学校（明治11年4月：払沢の心月院）」を、御岳山では「御岳学校（明治10年2月）」が開校されました。

こうして、旧三田村の地区内に5つの小学校が産声を上げたわけですが、どこも寺子屋の延長のような状況でしたので、政府は新しい校舎の建築を奨励しました。旧青梅町でも明治9年3月に3校合併により洋式の新校舎を新築しました。これらの情勢に刺激されたものか沢井村戸長福田操三・副戸長小沢太平等は連合学校を計画し、二俣尾・御岳・梅澤（現奥多摩町）の各村に呼びかけ寄付を集め、5カ村のほぼ中央である沢井村下分塚瀬（沢井2丁目）に洋式の新校舎を建設しました。これが、現第六小学校の前身になる神奈川県第8中学区第216番小学「江北学校（明治11年9月落成）」の始まりです。そして、翌年明治12年11月に最初の卒業式が行われましたが、この時に県令（今の知事）野村 靖自筆の「江北学校」の額が寄贈されました（現第六小校長室に掲額）。こうして現在の第六小学校につながる「江北学校」が出来上がりましたが、如何せん梅澤まで学区にしている関係（広い）で、桃林学舎と耕習学校をそれぞれ第1分校・第2分校として、低学年を受け入れました。

このようにして始まった「江北学校」でしたが、ここも第五小学校と同じく、程なく分離騒動が持ち上がります。それは、高い負担金を払っているが学校まで遠く、沢井村のためにやっているようなものではないかという理由で神奈川県に分離願いが出されます。明治12年7月に県庁から許可が出ると梅澤村が脱退、ついで二俣尾・御岳の両村の学校も独立していきます。分離後に二俣尾村では、現二俣尾保育園の場所に新たに校地を確保し新校舎を建築します。そして、明治16年10月6日に「二俣尾学校」と名称を改め、落成式と開校式を行いました。その後しばらくは「江北学校（沢井）」・「耕習学校（御岳心月院）」・「二俣尾学校」・「御岳学校（御岳山）」の4校体制が続きます。（明治19年に小学校令が交付され、翌20年より校名が「江北尋常小学校」というように

4校全てが改称されます。)

明治22年4月1日市制町村制の施行により、二俣尾・沢井上分・同下分・御岳・御岳山の5か村が合併して、「三田村」が誕生します。そして翌23年教育勅語発布とともに学校長制度が実施され4校それぞれに校長が任命されました。また、明治30年には江北尋常小学校では、補習科を廃して高等科(2年)を設置します。更に明治40年小学校令が改正され、「尋常小学校」の就業年数は6年とし、「尋常高等小学校」の就業年数は2年となります。(以後終戦後の昭和22年の6・3・3・4制の施行までこの体制が続きます。)

明治42年6月18日には「二俣尾尋常小学校」と御岳の「耕習尋常小学校」を合併して、「三田尋常小学校」と改称して、二俣尾・御岳はそれぞれ分教場となり、高学年になると本校へ通うようなシステムになっていきます。

明治も終わり大正時代になると村内に電気が引かれ(大正5年)、青梅線が二俣尾まで延伸(大正9年)されるようになります。大正8年には、「三田高等小学校」を合併して、「三田尋常高等小学校」と改称して沢井の本校に行けば高等科まで併設されているという青梅町他の村々と同じような学校制度になっていきます。

昭和の時代に入ると青梅線が御岳まで延伸されます。昭和9年3月には耕習分教場を廃止して本校に吸収します(これによって分校は二俣尾・御岳山の2校、現御岳1・2丁目の子供たちは、1年次から沢井の本校に通うことになりました)。更に昭和10年には御岳山にケーブルカーも開通し、現在の形に近いものになっていきます。

しかしながら軍事色の強まりとともに昭和16年には「三田国民学校」と名称が代わります。同18年には御岳山ケーブルが廃止(鉄の抛出による)され、翌19年都内の方からも学童疎開が行われるようになってきます。学童ではありませんが、青梅市の名誉市民となっている川合玉堂先生も沢井上分に疎開し、村民とも交流を深めました。

戦後の昭和22年には新学校教育法の下、高等科を廃し「三田村立三田小学校」と改称して、新たに二俣尾(現六小の場所)に新制の中学校を開設します。その後、昭和30年には、青梅市に合併し、「青梅市立第六小学校」となりました。更に第四・第五中学校の統合(市立西中の開校)にあわせて、昭和51年に旧第五中学校の校地へ新校舎建築・移転が行われ(この時に二俣尾分教場が廃止、沢井・御岳は電車通学という現在の形)現在に至っていますが、特に、御岳山に居住する子供たちは東京都で唯一、ケーブルカー・バス・電車と乗り継いで、1時間以上もかかって通学しています。

現在まで、8,889名の卒業生を輩出し、多方面で活躍されています。

右の写真は運動会のものですが、今でも運動会の最後に行われている「運動会も終わったり」の1コマです。会場にいる全員が一つの輪になって歌い・踊るもので、戦前より第六小学校の伝統行事として現在も引き継がれ行われています。

参考文献:「六小百年」・「青梅市史」

(文責 神森 正)

